



## 今月のテーマ 「学校医」

子どもたちの健康サポート

日に日に寒さが和らぎ、春のおとずれを感じられるようになりました。

冬の間に体に貯め込まれた美味しい食事たち。体の異変に戸惑いながらも一時的なものだと思っ

ていませんか？  
食生活について大人は自己管理で

学校職員の一員としてすべての幼稚園や小・中学・高校に配置されて

学校職員の一員としてすべての幼稚園や小・中学・高校に配置されて

# 任意の予防接種の費用助成のお知らせ

～ヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワクチン・子宮頸がん予防ワクチン～

任意の予防接種である「ヒブワクチン」「小児用肺炎球菌ワクチン」「子宮頸がん予防ワクチン」の接種費用を全額助成します。期間・対象者は下記のとおりです。なお、対象者には個別通知をしています。

- ・これらのワクチン接種は任意接種（本人または保護者の希望により接種を受けるもの）です。
- ・接種を希望する場合は、予防接種の効果や副反応について理解したうえで接種しましょう。
- ・接種を希望する人は、実施医療機関に予約をして接種してください。

●期間 平成23年3月1日～平成24年3月31日  
ただし、子宮頸がん予防ワクチンは、対象者によって期間が異なりますのでご注意ください。

### 対象者と接種スケジュール

#### ◆ヒブワクチン

接種開始年齢	接種回数	接種スケジュール
生後2～6か月	初回：3回	4～8週間の間隔
	追加：1回	初回3回目からおおむね1年の間隔
生後7～11か月	初回：2回	4～8週間の間隔
	追加：1回	初回2回目からおおむね1年の間隔
1～4歳	1回	—

#### ◆小児用肺炎球菌ワクチン

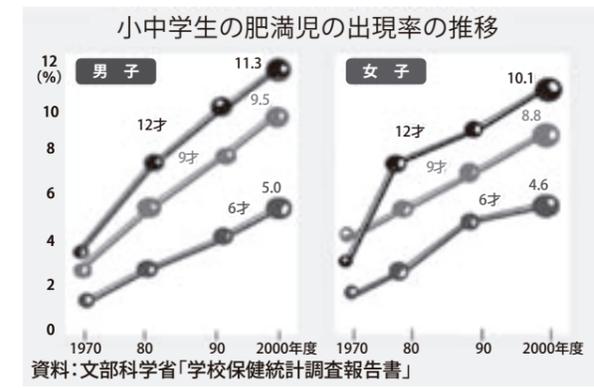
接種開始年齢	接種回数	接種スケジュール
生後2～6か月	初回：3回	27日以上の間隔
	追加：1回	初回3回目から60日間以上の間隔で、生後12～15か月の間に接種
生後7～11か月	初回：2回	27日以上の間隔
	追加：1回	初回2回目から60日間以上の間隔で、生後12か月以降に接種
1歳	2回	60日以上の間隔
2～4歳	1回	—

#### ◆子宮頸がん予防ワクチン

接種回数：3回（2回目…1回目から1か月後、3回目…1回目から6か月後）

対象者	期間
今年度、高校1年生に相当する年齢の人 (平成6年4月2日～平成7年4月1日生まれ)	3月1日～3月31日 ※この期間に1回目を受けた人は平成23年度中の2回目・3回目も助成の対象です。
4月から中学1年生～高校1年生に相当する年齢の人 (平成7年4月2日～平成11年4月1日生まれ)	4月1日～平成24年3月31日

●問合せ先 健康福祉課 ☎932-1151 (内線153・154)



いる「学校医」。学校生活では児童・生徒の皆さんと直接ふれあう機会が少ないのですが、定期的な実施される健康診断をはじめ、保健指導、疾病予防など子どもたちの健康を多方面からサポートしています。

子どもが小児肥満、そして生活習慣病にならないためには、家庭での食習慣がとて大切で、今一度、家庭での食生活を見直してみよう。もし、困ったことがあれば、気軽に保健室の養護教諭へ相談してみようのもよい解決につながるでしょう。須恵町の健康福祉課の栄養士・保健師もお手伝いさせていただきますのでぜひ、ご利用ください。

### 小児肥満が増加

戦後60年が経った今、社会や生活環境が大きく変わり、子どもたちにも与える影響も複雑化してきました。心の問題やアレルギー疾患、新興感染症、性に関する問題、薬物乱用、飲酒など、これまでになかった新しい問題を抱える児童・生徒が多く見られるようになりました。

非常に残念なことです。現在、日本では子どもでも生活習慣病、つまり以前は成人病と言われていた病気が不気味な勢いで子供達の間にも広がっているのです。

生活習慣病の多くは、偏食や過食が原因となっており、特に子どもの大好きなお菓子やファーストフード、清涼飲料水などには油や塩分、糖分などが多く含まれている場合があります。これらをたくさん食べたり飲んだりしてカロリーなどを取り過ぎることが問題です。このような食生活では、バランスのよい栄養素の摂取など到底期待できない状況があります。

こうした背景で成長した子どもは精神面での発育もアンバランスになり、ものの善し悪しの判断ができない、道徳心の欠如といった現実象が起きやすくなることも考えられます。

小児生活習慣病の危険因子としては、肥満、高脂血症、高コレステロール、

- ★お菓子類を買いだめしては、食べたい時にいつでも食べることが出来る用意がある。間食に高カロリーの菓子を与えずにしている。
- ★良いことをするとお駄賃として食べ物を与えていた。
- ★お出かけの時には、どうしてもファーストフードやお菓子を与えずにしている。「食べる楽しみとしての外出」になっている。
- ★おいしいものを好んで食べるのをいいことに、高エネルギー食を与えずにしている。「おいしいものが良いもの」という食習慣が形成されている。
- ★小さい頃から子どもがグズグズ言うとなだめるために食べ物を与えていた。子どもも食べることで気分が晴れることを身体が覚えてしまっていて、何かと食べたがる習慣がついている。

「健康のすすめ」の連載は、今月号で終了いたします。今後は不定期で連載させていただきます。

▼問合せ先  
健康福祉課 保健師まで  
☎932・1151 (内線153)

ル、高血圧、家族歴、ストレス、運動不足などと言われています。